

紀伊半島から 地方国立大学の未来への発信

～和歌山大学と地域との共創によるイノベーション創出～

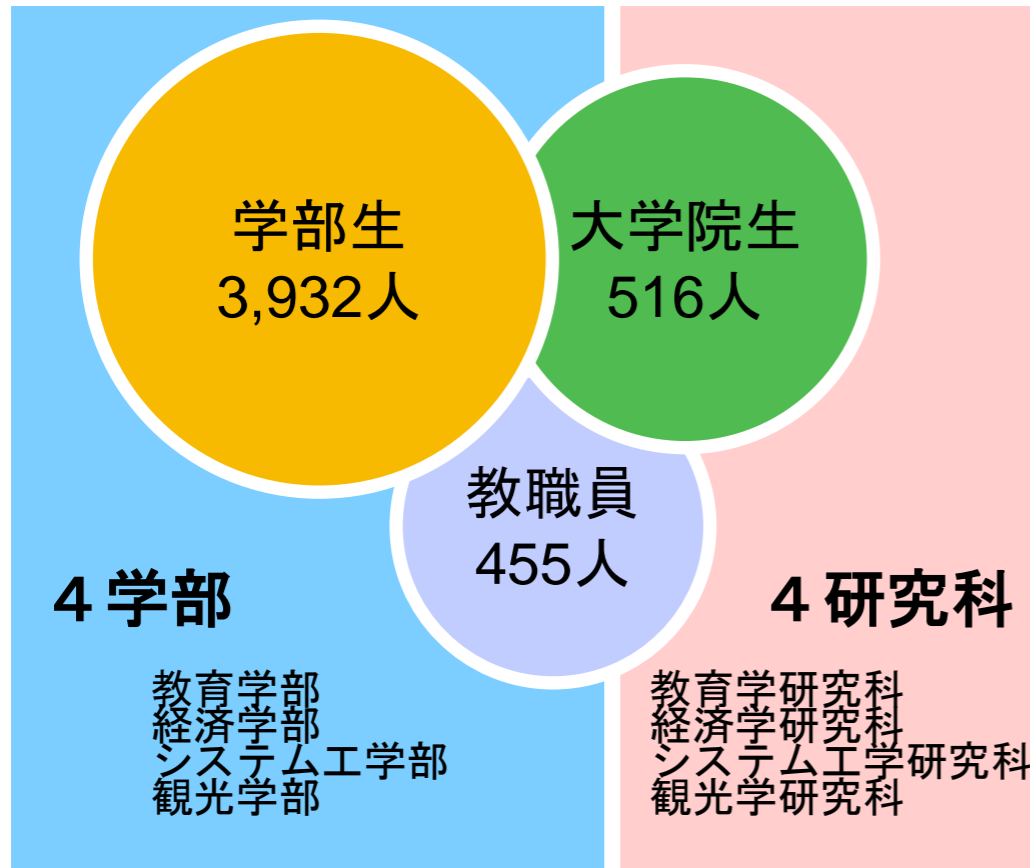


和歌山大学 学長
伊東千尋

和歌山大学の概要

沿革

昭和24年5月	新制大学として設置（学芸学部、経済学部）
昭和41年4月	経済学研究科修士課程設置
平成5年4月	教育学研究科修士課程設置
平成7年10月	システム工学部設置
平成12年4月	システム工学研究科修士課程設置
平成14年4月	システム工学研究科博士課程設置
平成16年4月	国立大学法人和歌山大学に移行
平成20年4月	観光学部設置
平成23年4月	観光学研究科修士課程設置
平成26年4月	観光学研究科博士課程設置
平成28年4月	教育学研究科教職開発専攻（教職大学院）設置
令和元年度	創立70周年



（令和4年5月1日現在）



志願者数合計	入学者数合計	入学者数内訳		割合
		和歌山県	近畿圏 (和歌山県を除く)	
3,686	916	和歌山県	243	26.53%
		近畿圏 (和歌山県を除く)	545	59.50%
		全国 (近畿圏を除く)	128	13.97%

和歌山大学の構成

教育学部・教育学研究科



◎ へき地・複式教育実習、小規模校活性化支援事業

和歌山県内の小規模学校と連携した、学生の教育実践力向上と、地域連携の重要性を学ぶ滞在型（主にホームステイ型）教育実習・体験活動。また、運動会や文化祭支援など、学生が学校教育を通じて地域に貢献する活動も実施。

経済学部・経済学研究科



将来の進路を見据えた6プログラム

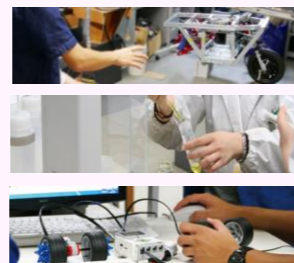


◎ エキスパート・コース

即戦力として活躍できる人材を育成する「エキスパート・コース」を設置。

現在、「アグリビジネス」分野に重点を置き、第6次産業を基軸に地方創生の担い手となる人材を育成。

システム工学部・システム工学研究科



◎ 1学科10メジャー制

2つのメジャー（ダブルメジャー）を選択し、学ぶことによる広範かつ柔軟な専門教育

観光学部・観光学研究科

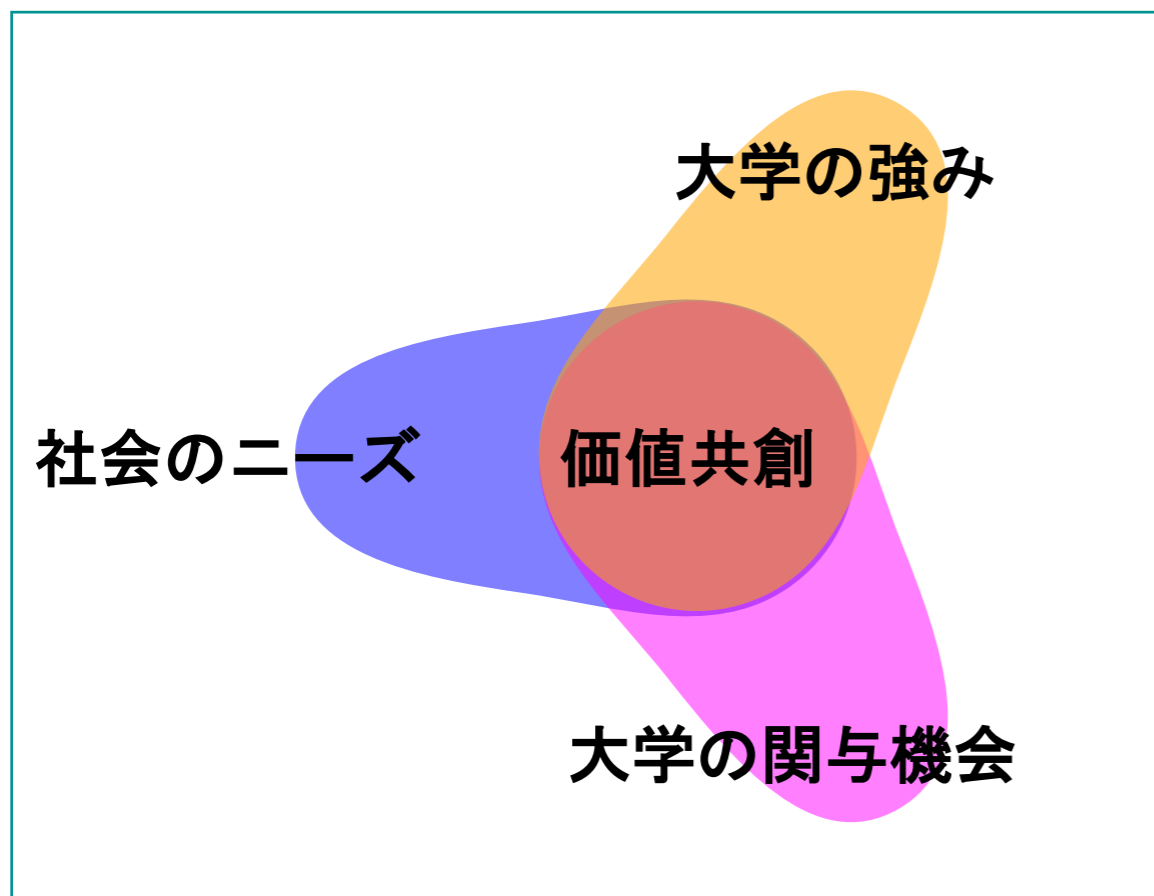


◎ 地域連携プログラム（LPP）

和歌山県内の市町村等の協力のもと、地域が抱える課題を学生が調査。学生は自らの関心や問題意識にもとづいてグループを形成し、数日間、現地に滞在し、関係者や住民との意見交換会などの活動を実施。

地方国立大学に求められること

- 持続可能でインクルーシブな経済社会システムの実現に寄与
- 社会変革の原動力
- 大学ブランドの確立
- 多様なステークホルダーへの対応



Creating Shared Value (CSV)

社会に新しい価値を生み出し、大学としての価値を高める（ブランディング）

- 大学の強み・価値の理解
- 社会ニーズの把握
- ステークホルダーの理解促進

価値創造

価値の展開

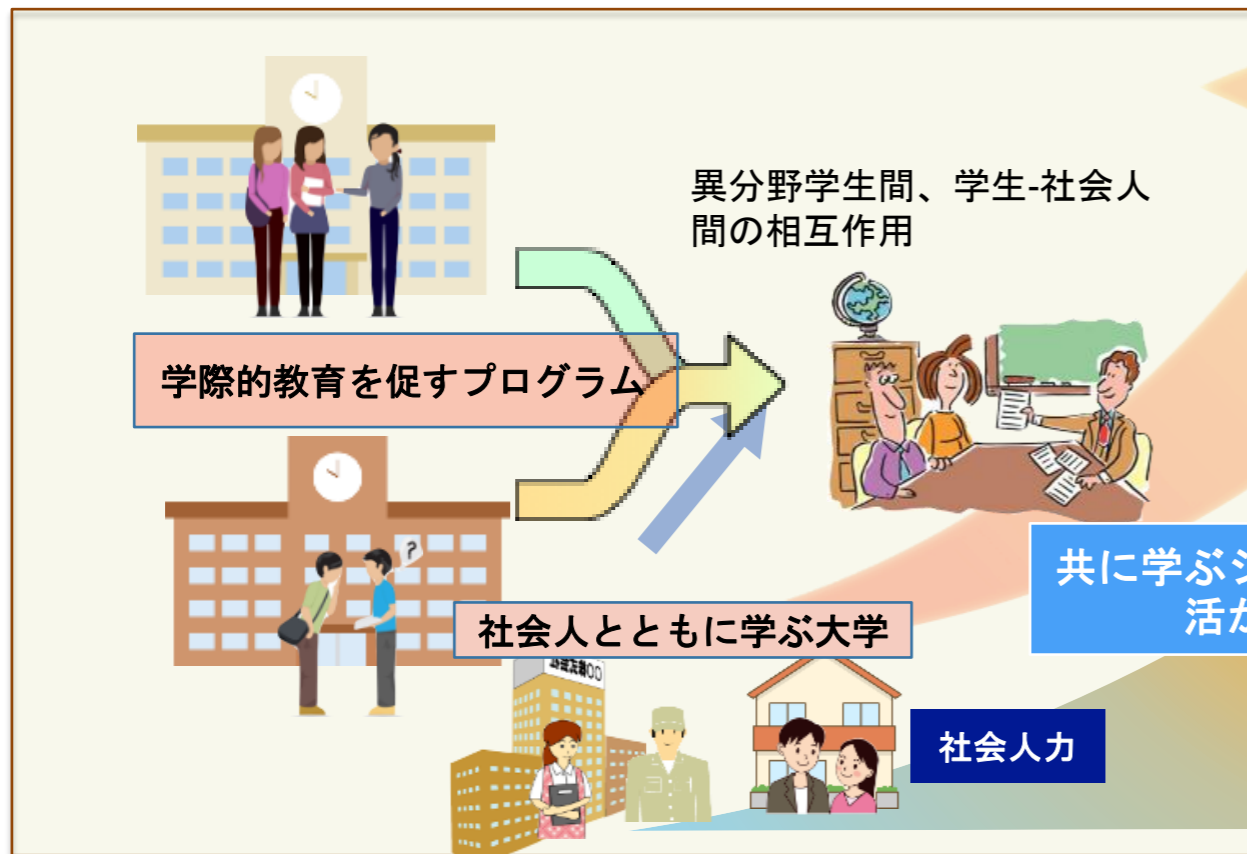
大学ブランドの確立

和歌山大学グランドデザイン2040

- 複雑化する社会課題を解決する人材の育成に向けた大学改革 -

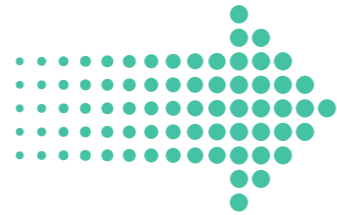
オープンエデュケーション「開かれた学び」で、多様で柔軟な教育研究を実現

- ❖ オープンエデュケーションによる教育の質転換
 - ▶ 学際的・学理融合を進める教育プラットフォーム整備
 - ▶ 学外の協力を得た教育プログラムの整備
- ❖ 多様な学生を受け入れる「場」の整備
 - ▶ リカレント教育と学部・大学院教育の融合





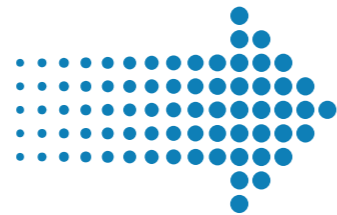
社会と連携した
オープンエ
デュケーショ
ン



- 社会人のCampusへの誘導
- 学生と社会人との交流
- 大学にないものを地域に求める



学生の力を
活かす



- Playerとしての学生の存在
- 学生の活躍の場を地域に
- 地域の活性化



知の拠点と
しての蓄積
を活かす



- 蓄積してきた知見の地域への展開
- 公共財としての位置付け
- リカレント・リスキリング

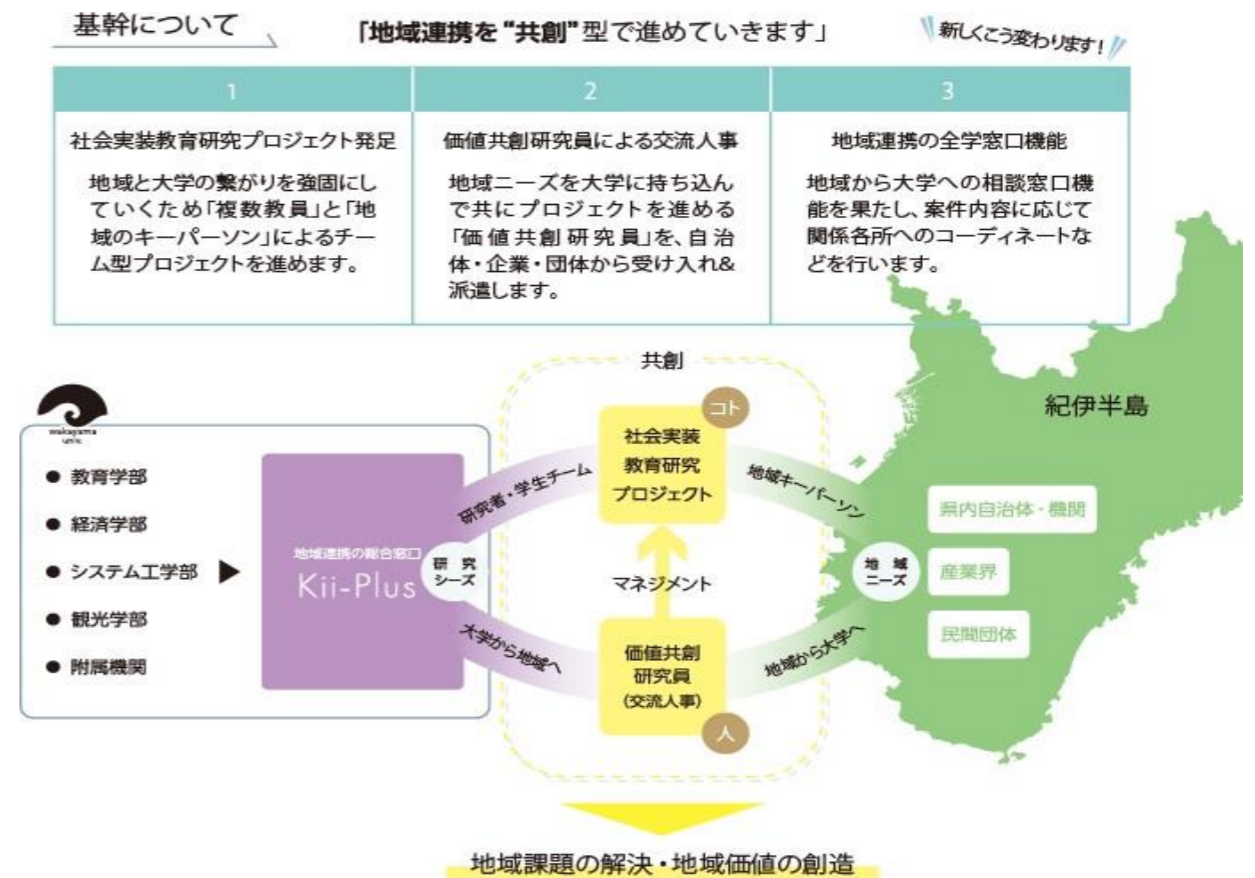
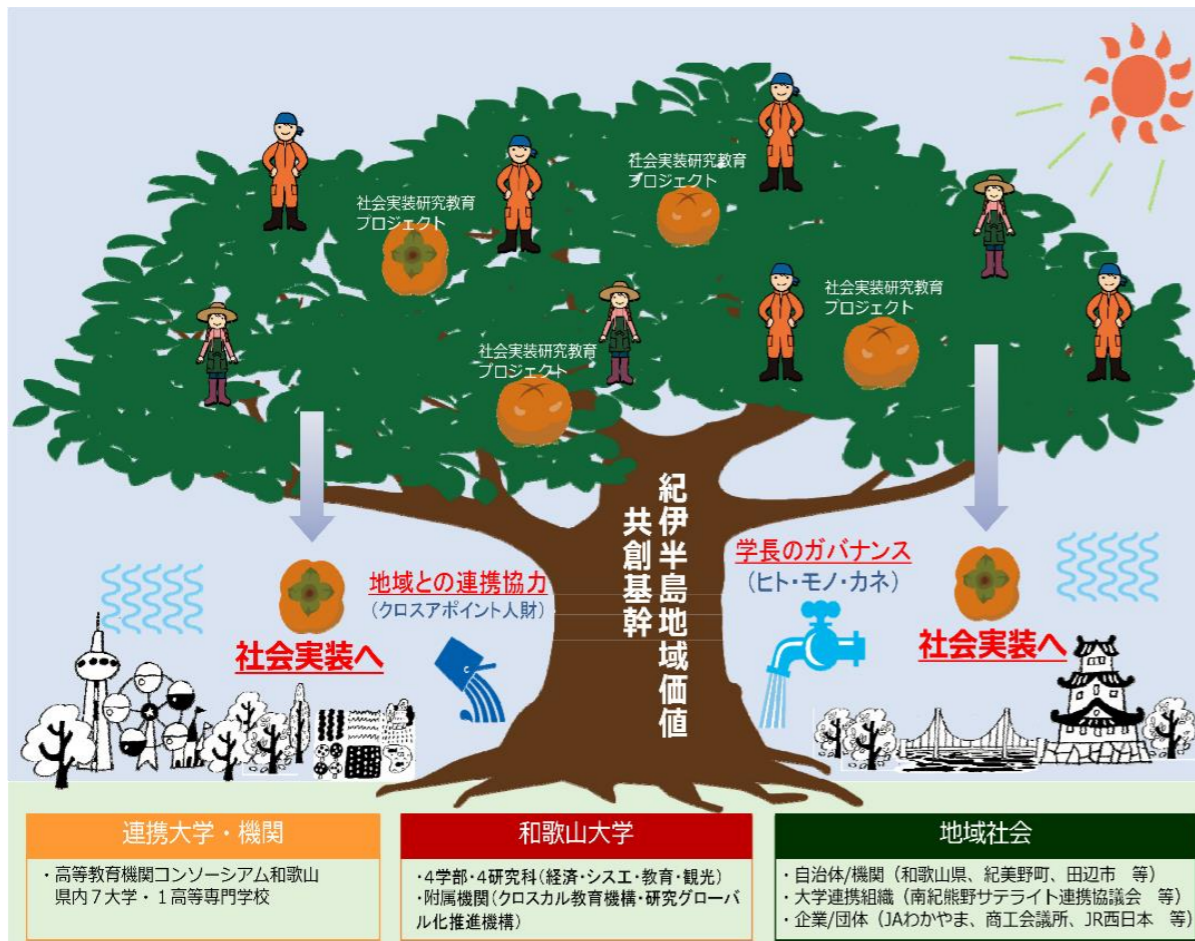


地域との
価値共創

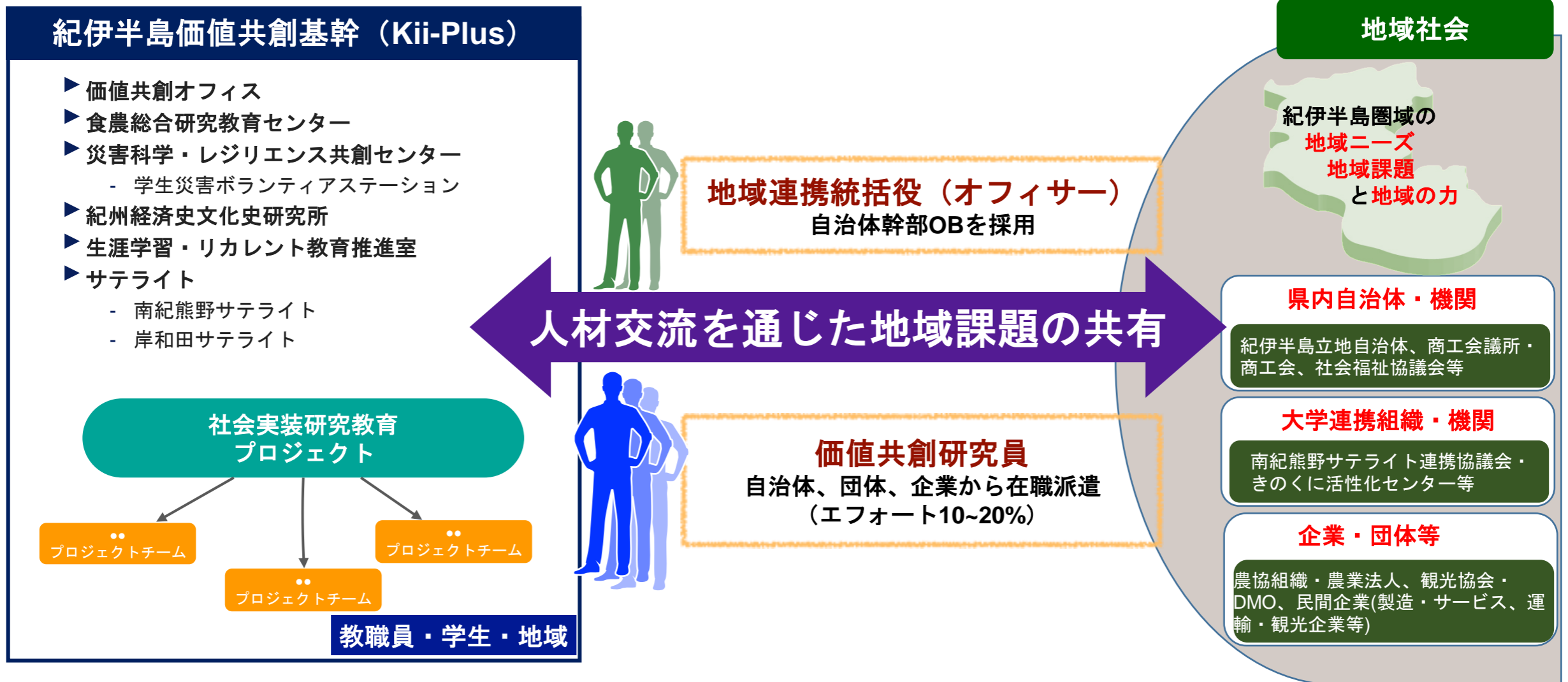
紀伊半島価値共創基幹 (Kii-Plus)

自治体や企業等とのパートナーシップによる教育研究及び社会実装を通じて、共に新たな価値を創っていく取組を実践する組織。

- ① 食と農にかかる地域づくりや都市農村交流の取組を実施する「**食農総合研究教育センター**」
- ② 防災、減災やまちづくり・むらづくりにかかる取組を実施する「**災害科学・レジリエンス共創センター**」を中心に活動を実施。



紀伊半島価値共創基幹の取り組み

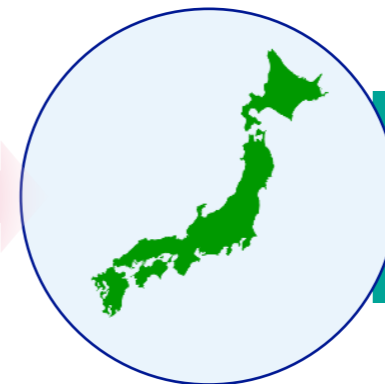


地域連携の和歌山大モデルから半島支援へ

人口減少地域における地域との価値共創のあり方

- 地域からの共創人材と学内教員の協働による活動の重装化
- 地域課題解決の教育への取り込み
- 研究成果の実装

抽象化
一般化



**「実践的社会科学」
課題解決
「地方創生」の実現**

和歌山県・県内30市町村長・泉州8市町長との“トップ対話”

- ・ 和歌山県+県内30市町村+岸和田以南8市町対象
- ・ 地域ニーズのヒアリング&基幹運営について対話

【対話成果】(例)

- ・ 太地町課題解決に向けた学生フィールドワーク実施
- ・ 古座川町紀伊半島大水害の記録化(オーラリティ)
- ・ 岬町スポーツツーリズムモニターツアーの学生協力
- ・ **由良町ビジコン事業**



“価値共創研究員”による人材交流と共創プロジェクト推進

- ・ 「日本遺産・葛城修験」の訴求力に関する調査研究
 - コロナ後のインバウンド化の可能性や留学生に対する調査
 - 「葛城修験」にモニターツアーによるルートの再生・発掘
- ・ 県社協・市社協と連携した「災害ボランティアセンター設置訓練」
 - 学生災害ボランティアステーション「むすぼら」(水管橋ボランティア)
- ・ 南海電鉄等との連携による「ご近所観光(マイクロツーリズム)」を実施



社会実装教育研究プロジェクトの展開

- ・ 地域ニーズ型プロジェクト(価値共創オフィス直轄)
 - ✓ 「外国につながる子どもの教育支援Pj」、「ご近所観光Pj」は**和歌山市の行政施策化**
 - ✓ 「食祭テラスPj」(阪神百貨店と共創)で和歌山ブースをプロデュース(R4.秋)
 - ✓ 「熊野古道街道Pj」(日本ユニストと共同)は歴史・文化の研究&古道の付加価値化
- ・ 提案型プロジェクト(紀州経済史文化史研究所)
 - 「和歌浦・和歌祭Pj」では本祭が中止となる中**キーノ**和歌山で定期公演(連続型)を実施



和歌山県由良町でのビジネスプランコンテスト



紀伊半島・和歌山県のほぼ中央に位置する由良町は、人口減少と更なる高齢化が進行するなか、地場産業を活性化し安定した雇用創出・地域経済の浮揚が大きな課題となっています。多くの知恵と対話を重視する基本方針のもと、今回、若い学生の新しいアイデアを広く募集し、課題解決につなげていきたいと思ひます。
応募内容は、具体的な資金・要員・収支計画を含んだ緻密な事業計画書の必要はありません。事業目的・事業規模・収益見込み額など主要な事業スキームを、自ら起業するイメージで企画してください。

応募資格 > 全国の大学・大学院・短大・高専・専門学校生 (個人または5人までのチーム)
募集テーマ > A...由良町の旅館の宿泊客を増やす B...由良町の高産物の売上高を増やす

最優秀賞 **10万円**
1名または1チーム

優秀賞 **3万円**
若千名またはチーム

和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus
お問い合わせ 応募先
〒640-8510 和歌山市栄谷 930
073-457-7127 region@ml.wakayama-u.ac.jp

コンテスト詳細はこちらまたは新聞から
<https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/academic-results/regionalpj/yura.html>

主催：由良町 協力：和歌山大学



- ◎ トップ対話からコンテスト実施が実現
- ◎ 全国から39件の応募
- ◎ 多数の学生が現地で実地調査

価値の展開：Kii Plusから新たな取り組みへ



地域の魅力を理解し、
活かす力の伸張



「地域魅力をイノベートする人材」の育成

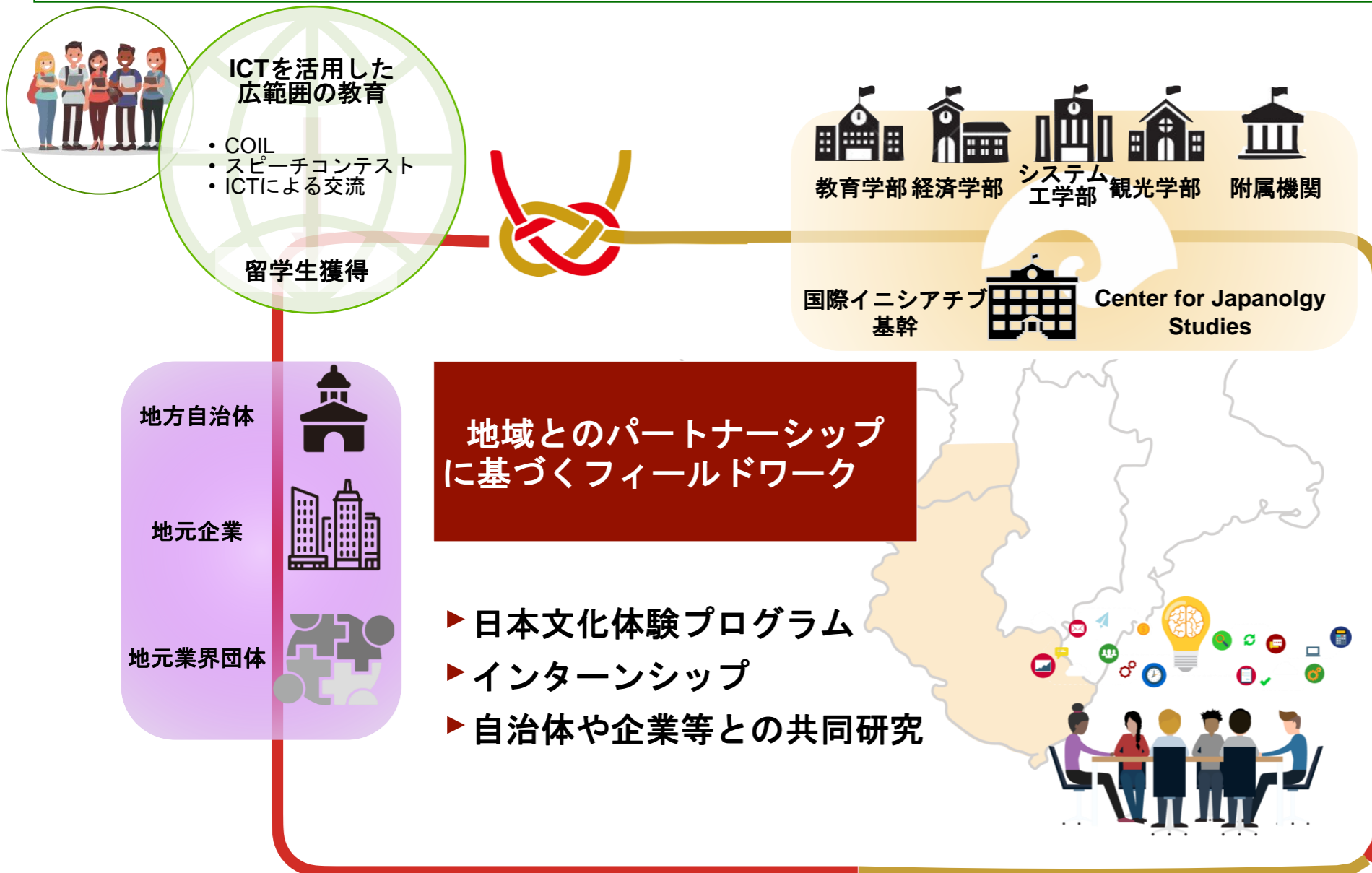
地域とのパートナーシップに基づく国際理解教育の推進

～ 留学生の和歌山県文化理解促進 ～



取組の基本方針

文化的・歴史的背景、地理的優位性（京都、奈良、大阪に隣接し、世界への玄関である関空に近い）を持つ和歌山において、**地域とのパートナーシップ**に基づくフィールドワークにより、**実践的に日本語・日本文化の理解を深める教育（「日本学」）を展開させ、SDGsの解決に日本文化を応用する「応用日本学」を日本人学生との連携・共創をもたらす教育プログラムとして副専攻化し、全留学生の必修科目とする。**



留学生による和歌祭唐人行列

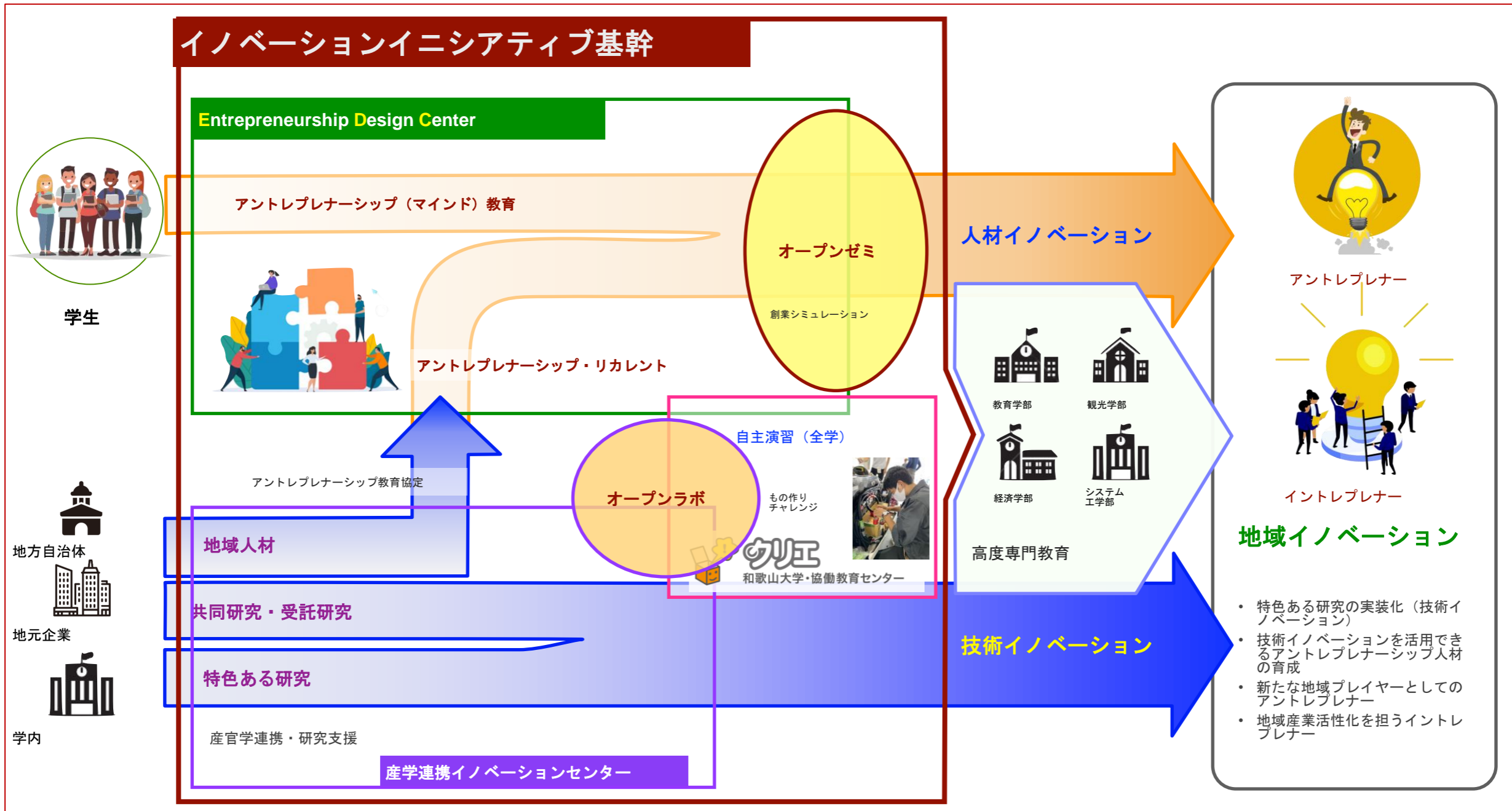


日本文化体験

地域一体教育を基盤とした地域協働教育拠点「イノベーションイニシアティブ基幹」の新設 - アントレプレナーシップ(ES)教育を核としたイノベーション・人材創出 -



地域中核大学として大学が主導する技術イノベーションを地域イノベーションとして実装化するには、その受け皿となる人材の育成（人材イノベーション）を進め、**地域のイノベーションプレイヤーの育成を、技術イノベーションとともに進めることが不可欠**である。人材イノベーションと技術イノベーションは強く相関しており、一体的なイニシアチブが必要である。このために、**イノベーションイニシアティブ基幹を整備し、技術と人材のイノベーションを強力に推進**する。



ES教育を核とした「人材イノベーション」

— 産官学民連携による地域人材育成循環モデル —

ES教育を核とした産官学民連携による「ES人材育成を通じた地域人材育成循環モデル」を構築。成長し続ける学生・社会人の育成を通じて地域社会のイノベーション創出に貢献する。

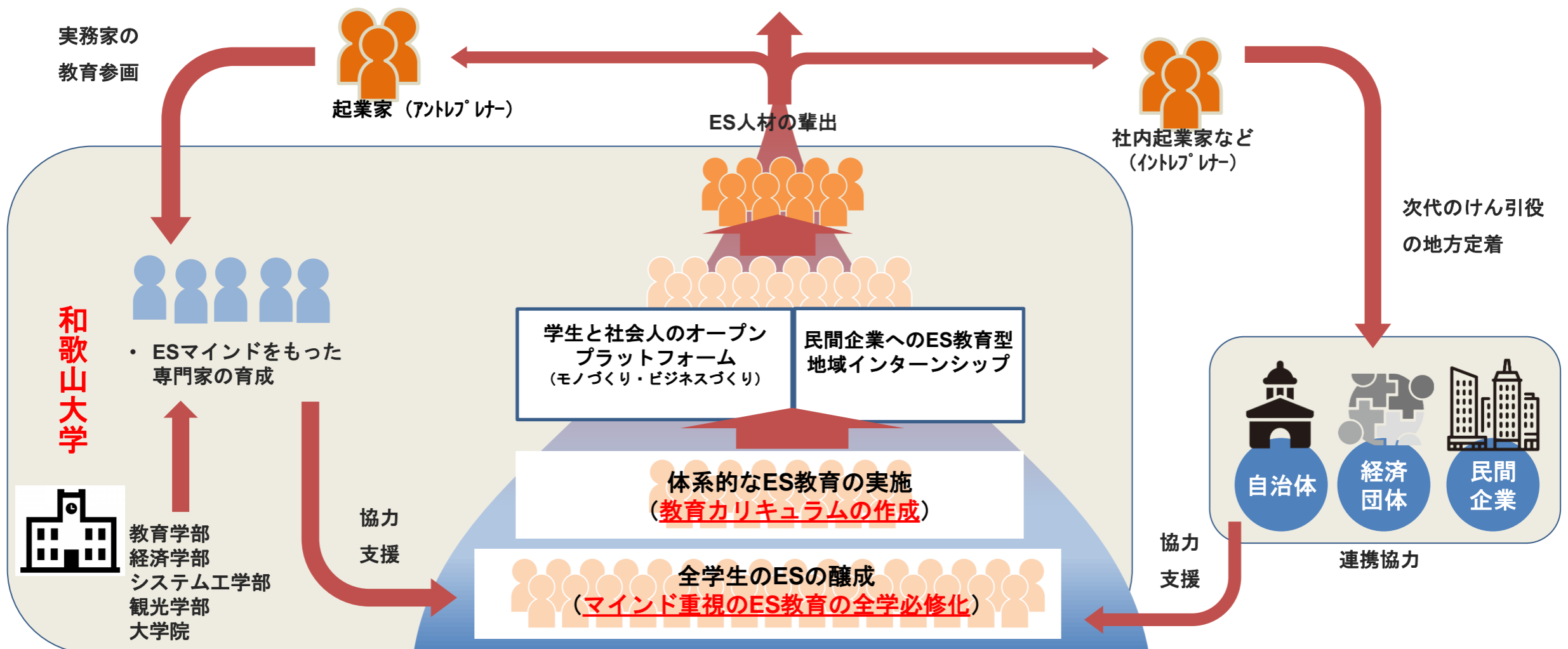
日本・地方の持続可能性を揺るがす3つの深刻課題

- ①経済・産業界から成長基盤としてES人材の渴望
- ②調和重視の地方でアントプレナー育成プログラムの遅れ
- ③地方中小企業でES人材の受入経験不足から人材の低定着率

本事業によって地方を再起させる3つの成果

- ①ES人材の多様な定着スタイル（起業家以外にも副業、インテグラーなど）
- ②事業意欲が高まった地方中小企業の経営拡大
- ③他地方にも水平展開できる人材育成循環モデルの構築

人材イノベーションを通じた地域イノベーションの創出




▶ 地方国立大学は地域の活性化を担う公共財

- 地域の価値としての位置付けを再確認

▶ 地域価値の共創を先導

- 地域ニーズの把握
- 地域人材の活用
- 地域価値の創造



地域課題の解決と価値創造により、地域から豊かな我が国を造る地方国立大学

▶ シーズにより地域を先導

- 個別事例を一般化、抽象化し、実践的研究として展開

▶ 社会システムイノベーションへの挑戦

- Campusのテストフィールド化